

生命保険の基礎知識

まず、基本をおさえましょう！

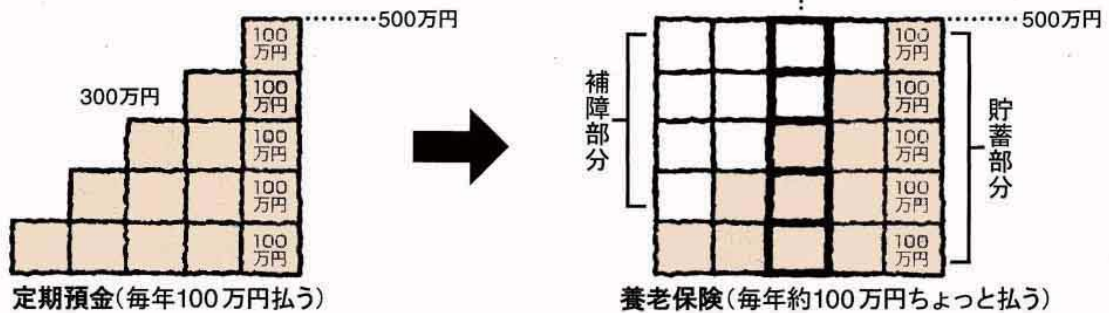
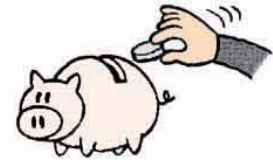
1. 養老保険
2. 定期保険
3. 終身保険

[養老保険]

保障より貯蓄を重視した商品で、一定期間お金を貯めていき、その間に万が一のことがあれば、約束の保険金が支払われます。問題は満期があることです。高齢になって本当に保障が必要になったときに満期がきてしまい、お金は入るが保障は無くなってしまいます。

- 保険料……………高い
- 保障……………低い(小さい)
- 性格……………金融資産
- 経理処理……………資産計上(経費にならない)

※原則として「経理処理」が必要なのは、会社で契約した場合です(以下同様)。



たとえば、500万円の貯金を5年間で行うと、毎年100万円ずつ貯めるということになります(上記左図)。3年間貯金した時点で、万が一死亡ということになれば、300万円の財産を残したということになります。

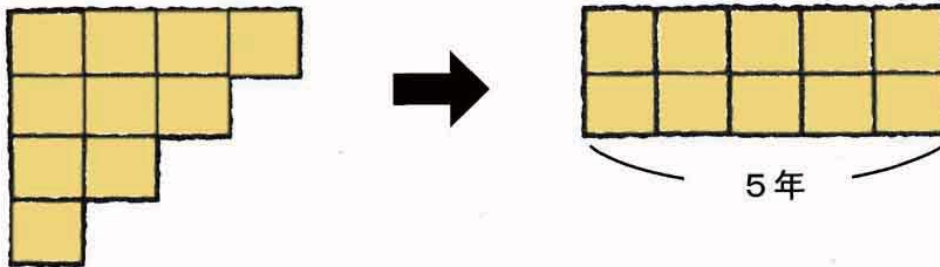
これに対して養老保険は、万が一契約期間の途中で亡くなっても、ゴールに設定した金額が支払われます。つまり、加入して3年後に死亡した場合、自分で貯めた300万円に200万円の保障部分が上乗せされ、500万円支払われるというものです(上記右図)。

結果、満期まで元気で保険料を払って満期金を受け取る場合は、自分で貯めた500万円が戻されます(実際には保障部分があるので約520万円くらいの支払いに対して500万円が戻る人が多いようです。保険会社によって差があるのでご確認下さい)。途中で万が一の場合は、貯金目的額までの差額が支払われますので、貯蓄性を優先して保障を付けた商品ということになります。

[定期保険](掛け捨て)

その名のとおり、一定期間(5年から10年が多い)の万が一の死亡に備えるもので、前頁の養老保険の貯蓄部分(黒い部分)を排除し、保障のみ購入することにより、養老保険に比べて保険料の負担はかなり軽減されます。

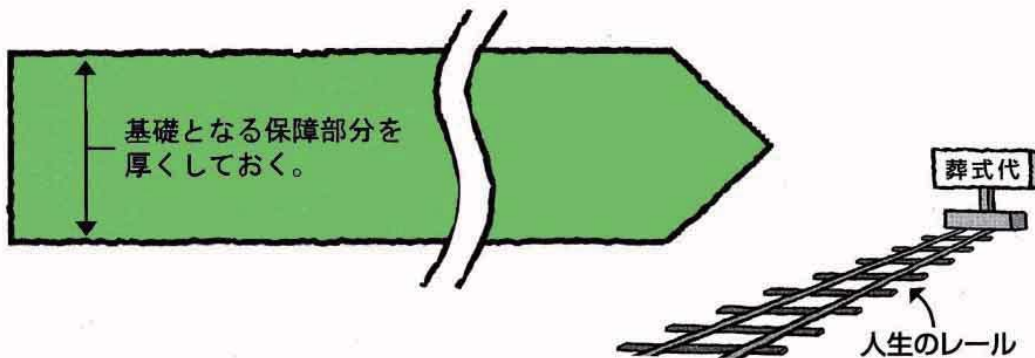
- 保険料……………安い
- 保障……………高い(大きい)
- 性格……………完全な保険
- 経理処理……………損金(必要経費)



[終身保険]

期限を切らずに、亡くなるまで保障が続く保険です。基本的には「葬式代」ということになります。

- 保険料……………やや高い(養老保険ほどではないが、そこそこ高い)
- 保障……………低い(小さい)
- 性格……………貯蓄・保険併用型
(どちらかといえば貯蓄性が高い。解約すれば掛け金が戻ってくる)
- 経理処理……………資産計上(損金又は必要経費にならない)



[その他の保険]

この他、貯蓄性のある保険と掛け捨て保険を組み合わせた「定期付き終身保険等」があります。比較的安い保険料で大きな保障を設定し、様々な用途に対応できるように工夫はされていますが、帯に短しタスキに長しで、目的と道具がジャストフィットしづらいという面もいなめません。「原付のエンジンにバスのボディを付けたような商品」といわれる所以です。長い目で見れば、社長さんや土地所有者の方は、セットではなく個別にオーダーしたほうが確実かもしれません。

